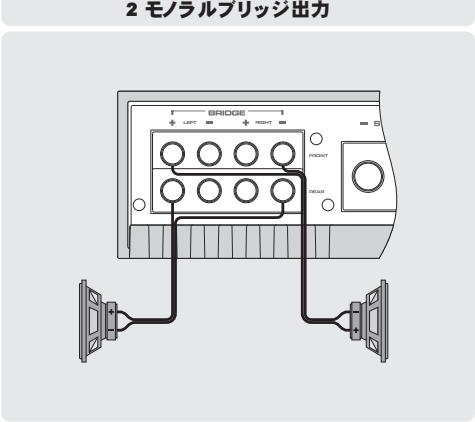
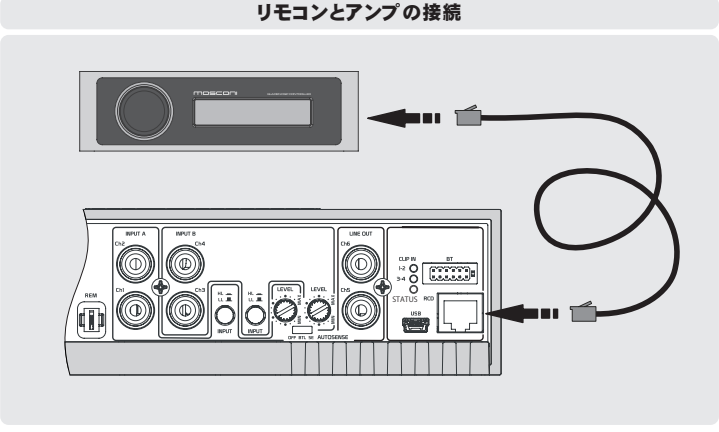
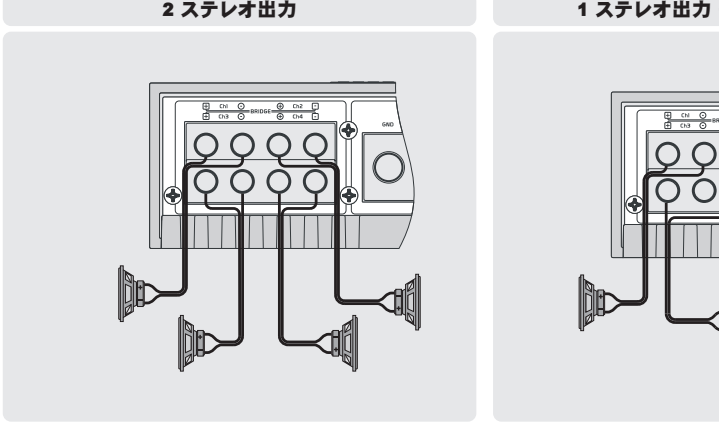


運転中は車外の音が聞こえる程度の音量ボリュームを維持してください
緊急車両の音や踏切などの音を遮るような過度の音量は、事故を引き起こす可能性があります。
また、車内での大音量はあなたの聴力にも支障をきたす可能性があります。

Power supply voltage	10 - 16V
DC-DC converter typology	Unregulated – Push Pull
External fuse	2 x 40A
Autosense power-on (in High Level mode only)	OFF - BTL - SE
Overall efficiency	>60%
Output power RMS	130W×4 @4Q-175W×4 @2Q-350W×2(Bridged) @4Q
Low level + High level input sensitivity range	0.8 ~ 17V
Gain level for each channel	-115 ~ -6dB
Parametric equalizer bands	30 (Ch 1-2) - 25 (Ch 3-4)
Preset	4 available
LP&HP frequency range for each channel	10 ~ 20000Hz
Variable «Q» factor	0.5 ~ 40
Time delay	0 ~ 15ms (steps of 0.02ms)
Phase inversion for each channel	0/180°
Low level & High level input	RCA
Pre output	RCA (Ch5-6) DSP processed
PC Connection	USB
Remote control (optional)	Modular jack
Dimensions and weight	310×200×50mm - 2.6Kg
Color and finishing	Black powder coating



最小許容インピーダンス：
ステレオモードで2Ω ブリッジモードで4Ω

 使用しないでください

MOSCONI
GLADEN AUDIO EUROPE

OWNER'S MANUAL
WARNINGS
WARRANTY CARD

GLADEN ONE130.4 DSP

重 要 当マニュアルをよく読み、当製品の規制や機能をよく理解してください。
製品の安全な取り付け、使用のため、注意書きに従ってください。

Rev. 1.2 2015/10

入力端子に接続

フィルターの設定

ソフトウェア ダウンロード

最新版のソフトウェアを入手するには、
以下のサイトからダウンロードしてください。
www.gladen-audio.com/DSP/download/www.gladen.com
ダウンロードができない場合は、販売店にお問い合わせください。

システム要件：Windows XP、Vista、7、8、10（32ビットおよび64ビット）。
setup.exeをダブルクリックすると、プログラムが自動的にインストールされデスクトップにMOSCONI DSPのアイコンが表示されます。
次のステップの順番に注意してください。
D2 DSPを、付属のUSBケーブルを使って接続してください。接続後60秒以内にD2 DSPとの接続を認識します。
これにより、PCで設定したDSPデータをDSPにアップデータとし、また、DSPに保存されている設定情報をPCにダウンロードすることができます。
ソフトウェアに動画による説明が付属しています。再生にはQuickTimeが必要です。
終了するには、ソフトウェアを終了しDSPとPCの接続を解除してください。設定は自動で保存されます。

重要：クロスオーバーフィルターにて設定できるQ値の範囲は広範囲に及ぶため、クリッピングが発生しやすいスピーカに負担がかかります。設定中は常にLEDを見て、クリッピングがないか確認してください。設定には使用域が必要で、さもなければスピーカの破損の恐れがあります。
安全のため、間違った設定やソフトウェアの不具合によるツィーターの破損を防ぐために、10Fのコンデンサーをツィーターの入口に入れておくことをお勧めします。

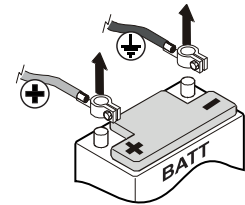
Bluetoothモジュール差し込み口（オプション）
日本では使用できません

クリッピング表示
入力の電圧が高すぎる場合、点灯します
その場合はピーク時に短く点滅する程度まで入力感度を調整してください

		MIN. SECTION (AWG/mm ²)							
CURRENT (A)	0-20	14/2	12/4	12/4	10/6	10/6	8/9	8/9	8/9
	20-35	12/4	10/6	8/9	8/9	6/14	6/14	6/14	4/21
	35-50	10/6	8/9	8/9	6/14	6/14	4/21	4/21	4/21
	50-65	8/9	8/9	6/14	4/21	4/21	4/21	4/21	2/34
	65-85	6/14	6/14	4/21	4/21	2/34	2/34	2/34	0/54
	85-105	6/14	6/14	4/21	2/34	2/34	2/34	2/34	0/54
	105-125	4/21	4/21	4/21	2/34	2/34	0/54	0/54	0/54
125-150	2/34	2/34	2/34	2/34	0/54	0/54	0/54		
		LENGTH (m.)							
		0-1.2	1.2-2.1	2.1-3.1	3.1-4.0	4.0-4.9	4.9-5.8	5.8-6.7	6.7-8.5

警告

12ボルト車にのみ使用のこと。
作業前にターミナルを外してから作業を行って下さい。
現在の負荷、ケーブルの長さ合ったパワーケーブルとゲージを使用してください。
当マニュアルの表は安全使用できる最小ゲージを示しています。
可能な限り利用可能な最大のゲージを使用してください。



スピーカー接続

IN1とIN2に入力された信号がOUT1とOUT2に出力されます
OUT1とOUT2ケーブルをスピーカーの(+) (-)に接続して下さい
ステレオ接続とモノラル接続の切り替えは、下記の図を参照してください

ボディアース

車体のフレームまたはシャシーの金属部分にケーブルをしっかりと接続してください
適正端子が付いている、できるだけ短いケーブルをご使用ください
塗料をはがし、適正な端子を使用し、最短の長さのケーブルをご使用ください

STATUS LED

1：スタートアップ時

Slow Toggle(for3sec.): DSPチップはセルフブートプロセスに入っており、eepromからコードを読み込んでいます(ブート障害が検出された後、最大5回までこのプロセスを繰り返します)。
Dimmed LED~1sec (非常に高速なトグル): MCUはDSPレジスタにフィルタ、タイムディレイ、ゲインの値を書き込みます。各高速フラッシュ: 1つのレジスタが正常に書き込まれています。

2：スタートアップ後

LED消灯：スタートアップ成功 LED点灯：スタートアップ失敗

3：動作中

短い不規則な点滅：出力レベルがクリッピングより3dB低い。
高速で規則的な点滅：ADCオーバーフロー、入力保護ミュート中。
オンのまま：オートフェードイベントが検出され、メインミキサーがアクティブでなくなった。他のミキサーが作動している間とバックフェード時間中はLEDが点灯します。

4：GUI

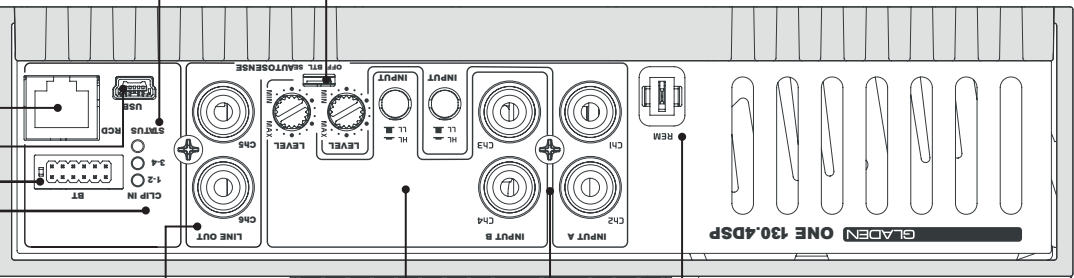
GUIからのコマンドが入力されるたびにLEDが点滅します。

5：シャットダウン

シャットダウン時には、LEDは0.5Hzでゆっくりと点滅します。

6：スペシャル

エラーやPurePath 12Cアダプターの接続によりMCUが停止した場合、LEDが点灯します。ファームウェアのアップロードに成功すると、LEDが点灯(〜1秒、リセット)し、高速点滅(〜2秒セルフプログラミング)します。
セルフプログラミング終了後、ファームウェアはリセットを作成し、起動ルーチンにジャンプします。スタートアップ・ルーチンにジャンプします。



RCA 出力 (CH5-6)

入力コントロール

ボタンスイッチでHi入力かLow入力をソースに応じて選択します
ダイヤルスイッチでソースに応じてアンプの感度を調整します
詳しくはソースとなる機器のマニュアルを参照してください

RCA 入力 (CH1-2-3-4-5-6)

リモートコントロール

適切に終端処理されたケーブルを使って
アンプのFASTON端子にソース機器のアンプリモート線を接続します

オートセンス：ソースに「BTL」技術がない場合は、「SE」に切り替えます。

「SE」は「シングルエンド」を意味し、「BTL」は「ブリッジタイドロード」を意味します。
「SE」と「BTL」は、すべてのヘッドユニットの電源出力段の電気的構成を指します。
古いヘッドユニットや安価なヘッドユニットは、出力段が低い(4Ωでチャンネルあたり10〜15Wrms以下)ので、そのため、適切なオートセンス動作を実現するためには、「SE」モードを使用する必要があります。

最新のヘッドユニットはほとんどが高出力のステージを持っています(通常、4Ωで35〜50Wrms/ch)を搭載しているので、「BTL」モードを推奨します。

SEは、ヘッドユニットの出力信号を常に一定の閾値と比較し、それ以上の値であれば、オートセンス回路が少なくとも1分間アンプを動作させます。

オートセンス回路は、少なくとも1分間はアンプを動作させます。

1分以上、適切な信号が検出されない場合は、アンプがオフになります。

*オートセンスを使用する場合はBTLモードにしてください

注意！ 「BTL」モードはオートセンス機能の規定値です。

「SE」モードの誤った使用はバッテリー上がりの原因になります。「SE」モードの仕様は、他のモードでは動かないときの最終手段として、自己責任において設定してください。MOSCONI-GLADENは、この誤った仕様に起因するトラブルにつきましては責任を負いません。
もし「SE」モードを使う場合は以下の事項をお守りください。
取付が完了したら、ヘッドユニットの電源が切れた後数分以内にDSPの電源が切れることを確認してください。もしDSPの電源が切れない場合は、「SE」モードは適しておりません。「BTL」モードに戻してください。「SE」モード時は、RCA入力を接続しないでください。

以下の3点は、音楽再生に使用しないRCA入力和接続してしまう可能性があります。

1. ハイレベル入力モード時に、RCAジャックのアース側をアース接続した場合
2. ローレベル入力モード時に、RCAジャックの内側に50Ωの助行を接続した場合
3. 信号線をソースからRCAチャンネルヘY字型コネクタで接続し、RCA入力(左右それぞれ)を0%に設定した場合。必ずすべての入力の設定を同じ入力モードにしてください(ハイレベルかローレベルか)

LED

GREEN:アンプは動作中です

音不足の考えられる原因:

- 1) ラウドスピーカーシステムが正しく接続されていないか、損傷している
- 2) 音源からの信号ケーブルが正しく接続されていないか破損している
- 3) 音源からの信号がない、または不十分である
- 4) アンプの電源が入っていない
- 5) 温度が安全基準を超えている
- 6) スピーカ回路の過電流

対処法

- 1) 接続の確認/回復および破損したスピーカーの交換
- 2) オーディオソースからの接続を確認/復元する
- 3) メーカーの推奨する方法でオーディオソースを適切に調整する
- 4) 3秒待つと、アンプは通常の動作に切り替わります
- 5) 温度が下がるのを待つ
- 6) オーバーロードの原因を取り除く

RED:アンプの電源は入っているが、機能していない。電源を入れ直して正常に動作するか確認してください。

考えられる原因:

- 1) 電源が不足している
- 2) ヒューズが飛んだ
- 3) 電源電圧がDC7V以下の場合
- 4) アンプが故障している

対処法

- 1) 電源回路の接続と接点の確認と復旧
- 2) ヒューズの交換
- 3) 車両のバッテリーの充電・交換
- 4) テクニカルアシスタンスの手続きは、正規販売店にお問い合わせください

ヒューズ

ヒューズを取り替えるときは必ずソース機器の電源をOFFにしバッテリーを外してください
茶色のヒューズを取り外し、同じモデルの同じ容量のものをご使用ください

プラス電源接続

ケーブルをバッテリーのプラス電源にしっかりと接続してください
適正端子が付いている、できるだけ短いケーブルをご使用ください
付属のヒューズとは別に、バッテリーにできるだけ近い位置に外部ヒューズを取り付けてください